

2014 年度 事業報告



社会福祉法人
北海道いのちの電話

いのちの電話の活動基本方針

いのちの電話は

1. 自殺を思うほどに悩む人の隣人として共に考え、心の支えになることを目的としています。
2. 秘密を必ず守ります。
3. 24 時間いつでもかけられます。
4. 名前を告げる必要はありません。
5. 相談は無料です。
6. お互いの宗教や思想は尊重します。
7. 相談にあたるのは所定の研修を受けた相談員です。

沿 革

この活動は 1953 年にロンドンにおいて自殺予防を目的にして始められました。世界 400 センター以上で活動が続けられています。北海道いのちの電話は 1979 年 1 月 25 日に開局しました。

ごあいさつ

理事長 南 槇子

北海道いのちの電話は 1979 年に開局致し、初年度は相談数 2,157 件、相談員数 55 名でスタートしました。それ以来 2014 年度で開局 35 年目を迎え、これまでの合計相談件数は 546,453 件、認定相談員は累計で 781 名となりました。

孤独や生きづらさで、自ら死を思う程に悩み苦しむ方の心の支えとなって、生きる力を取り戻せるようにと傾聴するいのちの電話は、2014 年は全国 50 センターで 723,503 件の相談を受信致しております。

日本の自殺者は長く 30,000 人を超えていましたが、国を始めとする各行政機関による政策・取組もあり、ここ数年は 3 万人以下に減少致しました。しかし依然として年間 25,000 人以上の方が自ら命を絶っており、私たちの活動はこれからも役割と使命感をもって続けていかなければと気持ちを引き締めております。

このボランティア活動は市民の皆様のお支えと相談員の熱意によって継続しております。どうか変わらぬご支援・ご指導をたまわりますようお願い申し上げます。

2014 年度の活動報告をまとめましたので、ご高覧いただけますようお願い申し上げます。

2014 年度 北海道いのちの電話 概況

設立	1979 年 1 月 25 日
法人認可	1983 年 12 月 23 日
組織	理事 10 名 評議員 21 名 監事 2 名
在籍相談員数	176 名 (2015 年 3 月末現在)
年間受信件数	18,625 件 (男 9,403 件 女 9,222 件)
相談時間	電話相談 24 時間 (年中無休)
ファックス相談件数	10 件 (聴覚・言語に障害のあるかたのため)
相談員研修	養成研修 1 年目 毎週 1 回 (2.5 時間) 2 年目 月 2 回 (1 回 2.5 時間) 継続研修 毎月 1 回 2 時間 他に全体研修数回
関連団体	日本いのちの電話連盟 各地いのちの電話 49 局

2014年度 委員会報告

研修委員会

委員長 間宮 和代

2014年度も「傾聴」を軸に研修を行ってきました。費用削減の中で資質向上を図るため研修の柱を作り、アンケートを取り相談員のニーズに応えられるように努めました。全国のセンターで相談員の不足が課題となっています。190人を維持していることは、現相談員の頑張りがあってのことですが、高齢化の影響で深夜帯の担当枠が埋まらない状況も生じています。

悩む人に寄り添う姿勢と、傾聴を深めるための暖かい組織と仲間同士の絆を深める取り組みが大きな課題となります。

事業推進委員会

委員長 牧 泰昌

法人活動を市民に広く認識頂き、協力と支援を頂くための活動を行いました。推進委員 22名、旧後援会 11名、サポーターズ 20名、合計 53名が参加しました。法人アピールとして、9月10日の世界自殺予防デーには札幌駅東西改札口でポケットティッシュの配布、地下歩行空間にて2回の「ナイト de ライト」公演と、法人案内チラシの配布・募金の呼びかけを行いました。

収益事業として、大平まゆみ X mas アフタヌーンティーパーティーを12月20日サンプラザホテルにて実施しました。チケットは313枚を販売し、広告収入として多くの企業・団体にご支援を頂きました。相談員交流としては相談員のための「ナイト de ライト」ミニコンサートを行いました。

支援企画委員会

委員長 坪田 伸一

市民公開講座や手作り品のテーブルショップ等を通じ相談員をはじめ一般の方々に対し、法人活動への理解と協力を呼びかける活動を行いました。4月12日に開催した市民公開講座では、札幌出身でいのちの電話活動の良き理解者である精神科医香山リカ先生から「こころ豊かに生きること」と題して講演をいただき、410名の市民が参加しました。

開局35周年記念事業として1月24日、約70人の相談員が参加して「フェスタ35」を開催しました。相談員の心を込めた料理が振る舞われ、手作り品のバザーやビンゴゲームで和やかなひと時を過ごし、良き交流の場となりました。

広報委員会

委員長 吉田 陸雄

法人活動を広報する任務に加え、自殺予防の観点から心の悩みを病理の側面から解説する構成を試みました。121号は「依存症」を特集し、合わせて市民公開講座、精神科医香山リカ先生の講演内容を纏めました。122号は「統合失調症」をメインテーマとして発行、123号は法人35周年を振り返りました。又次年度に札幌で開催される東日本広報担当者会議の準備に着手しました。

倫理委員会・苦情対策委員会・財務委員会 (理事長諮問委員会)

今年度は招集されませんでした。

2014年（1月～12月） 相談電話統計

1. 相談電話受信状況

総受信件数は 18,625 件と前年より 1,054 件（5.4%）減少しました。

男女別では、男性 9,403 件（前年比 3.2%減）、女性 9,222 件（前年比 7.0%減）となっていて、10年振りに男性からの受信数が女性からのそれを上回りました。

1日の平均受信数は 51 件（前年は 53 件）、1件の平均時間は 31.3 分（前年 29.7 分）でした。

通常電話相談の内、自殺傾向総数は 1,914 件。男女別では男性 624 件、女性 1,290 件と女性からは男性からの 2 倍を超えた電話がかかってきています。自殺傾向件数は、総受信数の 10.3%で、前年と比較して男女ともに件数は減少しています。（詳細後述）

a 年間受信件数

	男性	女性	合計
2014年	9,403	9,222	18,625
2013年	9,713	9,966	19,679

(増減) △ 310 3.2% △ 744 7.0% △ 1,054 5.4%

b 自殺傾向件数

	男性	女性	合計
2014年	624	1,290	1,914
2013年	627	1,375	2,002

(増減) △ 3 0.5% △ 85 6.2% △ 88 4.4%

厚生労働省補助事業として当法人でも実施しているフリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」は、毎月 10 日午前 8 時～午後 9 時 30 分（内 5 月・9 月・11 月は 24 時間受信）年間 12 日受信しており、その総受信数は 376 件で、男女別では男性 196 件、女性 180 件となっています。そのうち、自殺傾向件数は、82 件でフリーダイヤル件数の 21.8% となっていて、通常相談電話の内ですべて自殺傾向が占める割合の約 2 倍となっています。男女別では男性 28 件（14.2%）、女性 54 件（30%）と女性の割合が多いことが判ります。82 件の内の緊急度の内訳を見ると「念慮」が 71 件。男女別では、男性 24 件、女性 47 件となっています。「危険」は 11 件で、男性 4 件、女性 7 件となっており、「予告・通告」「実行中」は 0 でした。

2. 相談者の抱える問題

総受信数に占める割合が多い4項目（その他は除く）について

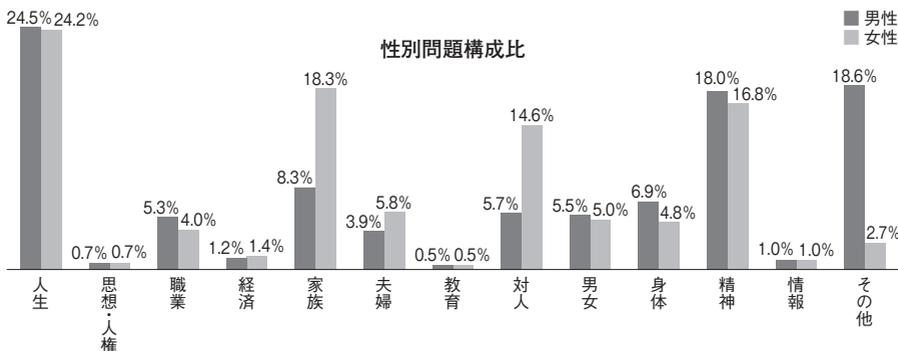
「人生」（生き方、生きがい、孤独などの小項目を含む）は、総件数の24.4%と最大の割合を占めています。男女別にみると男性24.4%、女性24.2%と男女差はあまりありません。

「精神」（うつ、統合失調症、嗜癖行動、自傷行為などの小項目を含む）は、総件数の17.4%で、男女別では、男性18.0%、女性16.8%と男女差はあまり見られません。

「家族」は、総件数の13.2%を占めていますが、男女別にみると、男性8.3%、女性18.3%と10ポイントの差があります。小項目「子育て」「扶養」「介護」「家庭内暴力」「老後」「不満」と各項目で女性の方が多く、特に「不満」は、男性166件に対し女性は954件と大きな差となっています。家族の中で困難さを抱えている女性の姿が想像できます。「対人」（ハラスメント、いじめ、引きこもり、孤立、性格、不和などの小項目を含む）は、全体の件数の10.1%で、男女別では、男性540件（5.7%）、女性1,344件（14.1%）となっています。小項目での男女数は、「孤立」で64件：1,063件、「性格」48件：1,073件、「不和・トラブル」199件：708件とこの3項目で悩みを訴えて来る女性が多いことが判ります。

相談者の抱える問題

大項目	件数
人生	4,538
思想・人権	129
職業	866
経済	240
家族（親族含む）	2,467
夫婦	907
教育	93
対人	1,884
男女	980
身体	1,097
精神	3,239
情報	191
その他	1,994
総件数	18,625



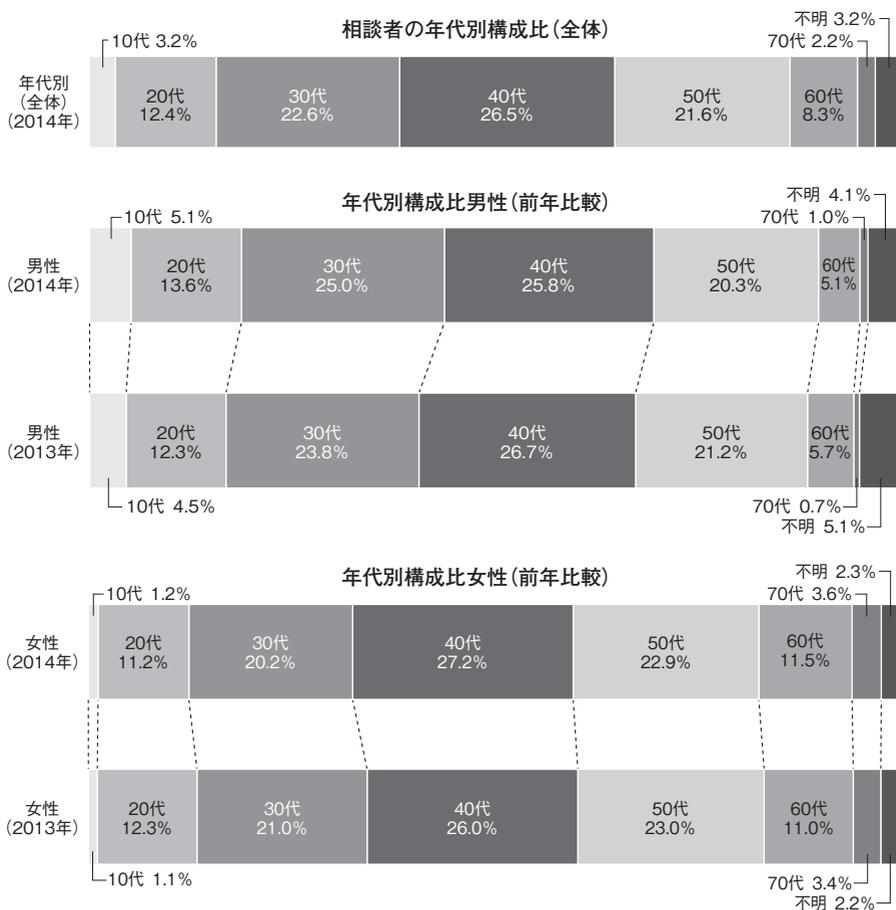
3. 年代別統計

40代 26.5%、30代 22.6%、50代 21.6%の順位は前年と変わりなく、割合もほぼ同じです。

男女別にみると、男性 10代、30代、70代、女性 40代、60代、70代が前年より増えています。他の年代は減っています。

特に男性 30代、女性 40代の増加率が高く、男性は将来の人生を決める時期であり、女性は自身の生き方を模索する年代であり、家族の問題、人間関係、これからの不安など直面する問題が多くあると思われます。

70代が男女共に僅かですが前年より増えています。孤独の寂しさ、哀しさ、経済的な不安、生きてきた人生への想い、ままならない健康への嘆きなど話されます。長寿国となり、これからも増えていくと予想されます。



4. 自殺傾向

自殺者は全国 25,427 人（2014 年、内閣府・警察庁データ）と前年より 1,856 人減少しており、連動するように当法人が受けた自殺傾向件数も 1,914 件と前年より 88 件減少しました。（減少率 4.4%）

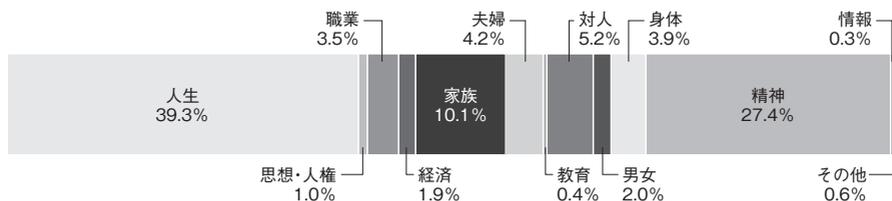
男女別の構成比は、男性 32.6%（昨年 31.3%）、女性 67.4%（昨年 68.7%）の割合となり、男性が増え女性が減少しましたが、女性は男性の約 2 倍となっています。

問題別では「人生」39.3%（昨年 39.4%）とほぼおなじです。男女共に「どう生きていいのかわからない」「希望が持てない」「ひとりぼっち」と深い苦しみを訴えてきています。

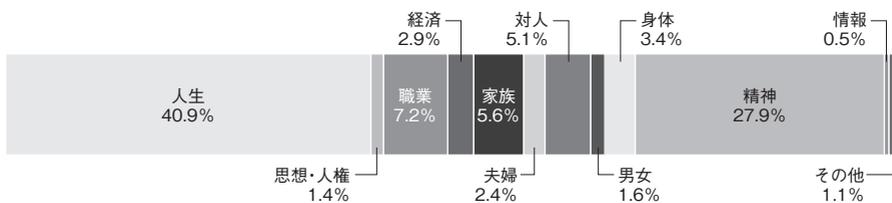
「保健・医療」のうち身体 3.9%（昨年 3.1%）、精神 27.4%（昨年 26.5%）、「職業」3.5%（昨年 2.4%）は昨年より割合が増えています。

女性は「精神」が昨年より増えました。男性の「職業」「経済」は女性より割合が多く、身体・精神の病を抱えながら、職業につきつづけて行く大変さを感じます。

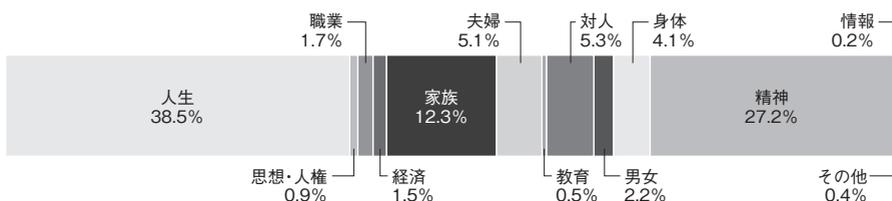
自殺傾向の方の抱える問題



性別問題構成(男)



性別問題構成(女)



2014年度 収支決算書 (2014年4月1日～2015年3月31日)

収入の部

(単位：円)

科目	2013年度	2014年度	前年比	備考
寄付金	13,612,494	13,190,388	97%	
補助金	2,900,000	3,526,800	122%	北海道、札幌市
分配金	1,100,000	1,100,000	100%	共同募金分配金
助成金	300,000	300,000	100%	道新基金、札幌信金基金
養成研修参加費	684,000	772,000	113%	
その他	329,123	93,590	28%	金利等
収益事業繰入金	1,542,955	1,384,147	90%	
収入合計	20,468,572	20,366,925	100%	

支出の部

(単位：円)

科目	2013年度	2014年度	前年比	備考
相談事業計	8,234,296	6,478,568	79%	
事業管理費	1,583,601	1,391,461	88%	電話室・研修室賃料・光熱費
養成研修費	2,556,371	1,965,187	77%	養成研修講師費、スタッフ経費
継続研修費	2,965,924	2,084,636	70%	相談員研修費、講師費、スタッフ経費
研究調査費	310,620	79,880	26%	対外研修参加費
広報費	746,640	731,634	98%	広報誌発行
支援企画費	71,140	225,770	317%	公開講座実施・35年記念事業
センター管理費計	12,437,174	12,221,694	98%	
管理費	2,448,935	2,831,691	116%	事務局賃料・光熱費・リース料他
事務費	1,155,687	869,075	75%	事務経費
事業推進費	2,304,902	2,344,414	102%	分室賃料・運営費
人件費	6,527,650	6,176,514	95%	事務局人件費
分担金	373,000	335,000	90%	連盟
減価償却費	587,658	541,040	92%	
収支差額	- 1,163,556	790,623		
支出合計	20,468,572	20,366,925	100%	

寄付金推移

(単位：千円)

区分	2012年度		2013年度		2014年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
企業寄付金	309	6,721	304	6,760	277	7,231
個人寄付金	1,162	5,381	1,171	6,852	1,171	5,959
合計	1,471	12,102	1,475	13,612	1,448	13,190

2014年度 貸借対照表 (2015年3月31日現在)

借方			貸方		
(単位:円)			(単位:円)		
科目	当年度末	前年度末	科目	当年度末	前年度末
流動資産	6,774,746	5,449,820	流動負債	69,061	75,798
現金	53,961	35,139	預り金	69,061	75,798
銀行預金	5,975,585	3,532,641			
前払費用	97,100	140,910			
未収金	626,800	1,542,955			
仮払金	0	193,175	基金		
立替金	21,300	5,000	基本財産基金	16,336,000	16,336,000
固定資産	21,515,743	22,058,385			
電話加入権	336,000	336,000			
什器備品	1,114,643	1,643,083	基本財産積立金	2,000,000	2,000,000
建物付属設備	65,100	77,700			
基本財産基金 引当預金	16,000,000	16,000,000	事業運営積立金	2,000,000	2,001,602
基本財産積立金 引当預金	2,000,000	2,001,602			
事業運営積立金 引当預金	2,000,000	2,000,000	繰越金	7,885,428	7,094,805
			前期繰越金	7,094,805	5,256,806
			当期収支差額	790,623	-1,163,556
			積立金取崩収入等		3,001,555
資産合計	28,290,489	27,508,205	純財産合計	28,221,428	27,432,407
			負債及純財産合計	28,290,489	27,508,205

2014年度 監査報告

社会福祉法人 北海道いのちの電話 理事長 南 槇子 殿

平成26年度の、一般会計と特別会計業務執行状況及び会計収支について記録計算に相違なく、定款、諸規定に照らし適性に運営されていることを確認した。

監査日時 平成27年5月16日
 監査場所 北海道いのちの電話会議室

監事 佐藤正晴 

監事 青山 力 

2015年度 事業計画

法人基本方針	運営環境の変化に対応する柔軟な組織体質の構築 養成講座受講者数の増強
研修委員会	養成部門の組織的位置づけの再検討
事業推進委員会	イベント活動の充実。法人活動認知度の向上
広報委員会	法人の社会的使命の周知。東日本広報担当者会議の実施
支援企画委員会	市民公開講座の実施。バザーの実施

2015年度 収支予算案 (2015年4月1日～2016年3月31日)

収入の部

(単位：円)

科目	2014年度実績	2015年度予算	前年比	備考
寄付金	13,190,388	14,000,000	101%	
補助金	3,526,800	2,900,000	82%	北海道・札幌市
分配金	1,100,000	1,100,000	100%	共同募金分配金
助成金	300,000	300,000	100%	道新基金。札幌金基金
養成研修参加費	772,000	800,000	104%	
その他	93,590	40,000	43%	金利等
収益事業繰入金	1,384,147	1,500,000	108%	
収入合計	20,366,925	20,640,000	101%	

支出の部

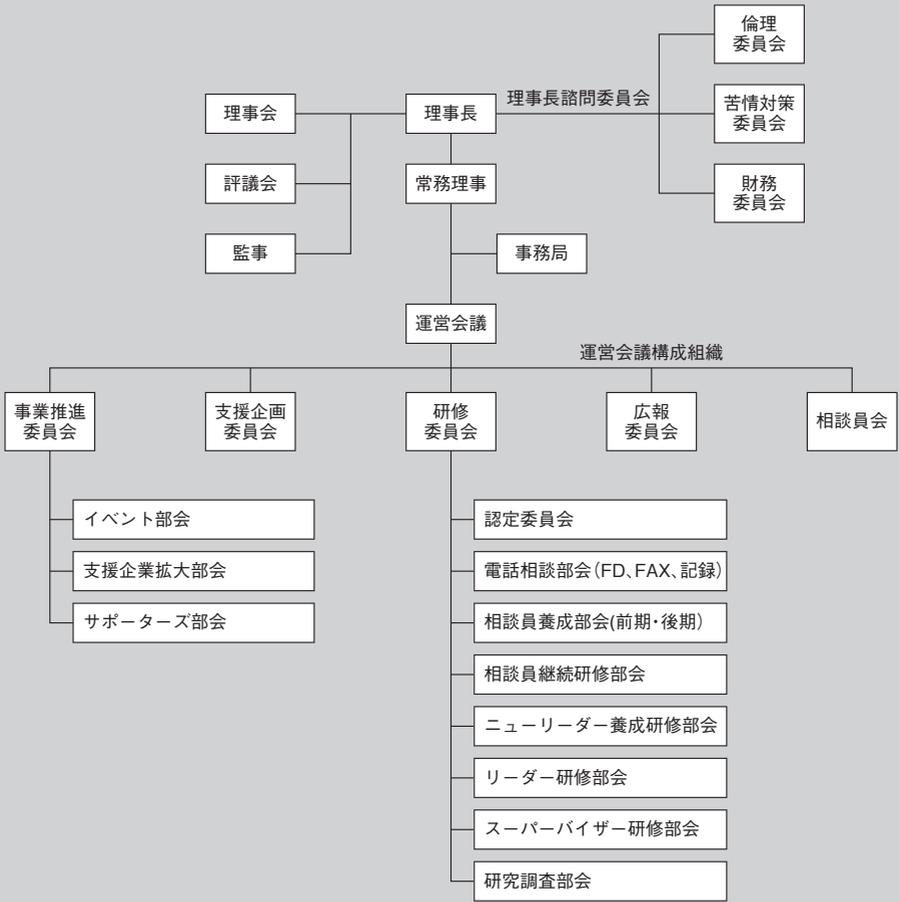
(単位：円)

科目	2014年度実績	2015年度予算	前年比	備考
相談事業計	6,478,568	6,660,000	103%	
事業管理費	1,391,461	1,000,000	72%	電話室・研修賃料・光熱費
養成研修費	1,965,187	2,320,000	118%	養成講座費用
継続研修費	2,084,636	2,060,000	99%	継続研修費用
研究調査費	79,880	80,000	100%	対外研修参加費他
広報費	731,634	1,100,000	150%	広報誌印刷発送他
支援企画費	225,770	100,000	44%	公開講座費用他
センター管理費計	12,221,694	11,850,000	97%	
管理費	2,831,691	2,555,000	90%	事務局賃料・光熱費
事務費	869,075	845,000	97%	事務経費
事業推進費	2,344,414	2,400,000	102%	分室賃料他
人件費	6,176,514	6,050,000	98%	事務局人件費
分担金	335,000	340,000	102%	日本いのちの電話連盟
減価償却費	541,040	700,000	129%	
予備費	0	1,090,000	-	
次期繰越金	790,623	0	-	
支出合計	20,366,925	20,640,000	100%	

役員名簿 就任期間 2013年6月1日～2015年5月31日

理事長	南 禎子				
常務理事	高杉 純二				
理事	今野 涉	池田 輝明	島津 宏興	嶋津 博	
	坪田 伸一	牧 泰昌	間宮 和代	吉田 陸雄	
監事	青山 力	佐藤 正晴			
評議員	池田 光幸	池本 真美	伊藤 雅彦	太田 一男	
	大町 信也	岡田 寿	岡本 雄一	勝谷 太治	
	榊原 綾子	佐々木三郎	佐々木僚子	佐藤 國彦	
	嶋 典賢	返町 賢治	高橋 義人	中原 准一	
	藤田 慶一	牧野 欣胤	水野 匡勝	横田昌治郎	
	米倉美佐男				

組織図



きっと道はありとおもうから

フリーダイヤル (毎月 10 日)

 0120-738-566

全国統一 ナビダイヤル ^{なやみ ころろ} 0570-783-556

北海道いのちの電話相談番号 011-231-4343

FAX 相談 (聴覚・言語に障がいのある方) 011-219-3144

いのちの電話を支える3つのボランティア

資金ボランティア

資金面で支えていただくボランティアには、
次の2種があります。

継続寄付 / 毎年継続して寄付される個人・団体の方
(個人3,000円～ 団体10,000円～)

一般寄付 / いつでも、いくらでもご寄付される
個人・団体の方

サポーターズ ボランティア

みなさんの経験・知識・技術・
ノウハウ等を生かして
「いのちの電話」の運営を
支えていただく
ボランティアです。

相談ボランティア

活動の趣旨に賛同し、相談員として
活動していただけるボランティア
を募集しています。

相談員になっていただくには、
養成講座を受講し、認定を受けて
いただくことが必要です。



社会福祉法人 北海道いのちの電話

<http://www.inochi-tel.com/>

発行日 2015年8月

発行所 社会福祉法人 北海道いのちの電話

〒060-8693 札幌市中央郵便局私書箱 107

事務局 TEL.011-251-6464 FAX.011-221-9095

印刷 株式会社アイワード

 この報告書は共同募金の配布金で作りました。

2015.8.2.000